

研究課題

「観光振興プロジェクトの地域連携パスの開発と体系化」

(2022年度学術研究助成基金助成金 基盤研究(C)に採択)

社会学部
現代社会学科
大塚良治 准教授

2020年初頭に日本でも大きく拡大したコロナ禍により、外出自粛が度々求められ、観光は大きな打撃を受けました。コロナ前、東京から富士山を経由して、京都・大阪を巡った後、関西国際空港から帰国する「ゴールデンルート」が訪日外国人の定番観光ルートでしたが、政府や各地方自治体は、地方への訪問を促し、訪日外国人の消費を地方へ広げようとしてきました。各地域は選ばれる地域となるべく、情報発信や受入体制の整備を進めました。しかし、鉄道事業者、観光事業者、行政などの地域のステークホルダーの間で、利害が一致せず協働が進まない状況を筆者は度々目の当たりにしました。こうした問題を改善するには、地域活性化という共通の目標に向けて、観光振興プロジェクトに関してステークホルダー間の協働を促す仕組みとして「観光振興プロジェクトの地域連携パス」の開発と体系化が必要と認識するに至ったことが、本研究のきっかけとなりました。

本研究では、まず、財務分析と、SWOT分析・バランス・スコアカード(BSC)を基盤とした経営戦略分析とを統合した事業評価指標を体系化します。そして、事業評価指標を「見える化」し、行政、地域の民間観光事業者、地域住民、市民団体などの地域のステークホルダーの間で、結果の議論・共有を導き、継続的な事業改善を促進します。

ここで、観光振興プロジェクトとは、行政または民間観光事業者が単独または協働して観光資源を創出または活用するために、金銭を投じて実施する事業活動を指します。たとえば、鉄道事業者が路線や沿線地域の活性化を目的として観光列車を運行する場合では、この観光列車の運行を観光振興プロジェクトとみなして、費用と効果を測定して、その結果を地域のステークホルダーの間で共有します。そのことにより、ステークホルダー間のコミュニケーションが促進され、観光列車の運行時に、沿線住民による出迎えや見

送り、沿線での魅力的な店舗づくりなどの地域の協力を引き出すことが期待されます。観光列車をはじめとする観光振興プロジェクトの価値向上とともに、将来的には地域戦略策定の枠組みの構築にまでつなげることを目指して研究に取り組みます。

